七

八
4340
8

へ8
4340
8
特

西鶴名作

西邑屋佐兵衛

西宮藩

宮内庁書陵部

繪本黄金鯖七夜巻

造り物一面の浪幕　舞台おろし三間役の浪を拵げて後面に拵げて魚

その猟船あちこちいさく船毎にかがり火焚き網を曳き

五人伸一セイ小く幕をかくと西の方の高西左衛門猟船に乗り網を

おろし明松どうり上又六拵ゑ出ると東の方七里浦西宮門先も猟船

小く巻き揃をおしやるト西方船あく

一高西早太郎　一浦西傳内今ゑ　一浦西藏茶ゑ押く来る　一高西左衛門船頭八斗

の仲茶の茶ゑとやがて又助も一番ゑコリや情が出るゑ　一ちよどやともゑんが右の船ゑ

ぐ内ゑ取情出さるゑやあるぬゑ左衛門殿　一ちよどやともゑんが右の船ゑ

知よや　壊止と丹馮河ゑ　一ちよどやともゑんが右の船ゑ

らぬト網を引上るゑ　一ちよどやともゑんが右の船ゑ

ゑ上方ゑ来るゑ　一高西左

そもゝ情出てゝ国の業が繁昌ぶりあつふまつ
上ハ戸根川ヤ浅川神田ヲ笑しんとゝふ浮利ぶや　浦　猟師小仙舎めゝ郎ハあや
うものぶや　ト浦　ヲ網ヲ引上
もしがんど者仕業ふ分てあびすゆ　浦　ハテ勿体ない
と坊ん方ゝ言ふうくしん女房ゝ言ふてぶて居るのふたり　又　ゝ郎の男ゝ言事で
丁ふゝる雑ものゝ言ふやけぬ者ゝ言はしぶや　浦　猟師が無ぬのゝ名の内ゝ
く笑うふ内義ゝ郎が自堂ふ　浦　ゝんゝゝ家とゝく猟場でゝんが女房ゝ
くしんのゝゝ搔ひもゝぬゝて浮利ゝ浦ゝ儲ゝゝゝゝ　浦　ゝゝ
めゝゝ　浦　ゝてもめゝゝふ浦ゝゝゝゝ　浦　ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝふ四ひゝ　浦　ゝゝゝふやゝけぬぶ　ト
笑ゝゝゝゝゝ浦ゝ　ゝ郎ゝ

刈根　浦　ゝ西国の蟹ゝゝ郎ゝゝ
のゝ　ゝゝゝゝゝゝ

あれば「浦」「菖蒲太郎」呑ふ行でよ「菖蒲」「待て」行まうこそ今夜ハるゝふ仕返ドリや
いうふう「ふう」「生く」「逃ぐ」「待て」「行まうぞや」「もふ」「おいくも」「仕まふて」「菖蒲」「その者」「盛月」「あふト」「浦」
「菖蒲」「あんこ」「あんこ」「あんこ

送り物二重蒔絵又付赤塗江戸仕様上の方折り傳
赤俵持ぐるま左右に門に柳いつもの形二門に柳の行燈ひけ文字ふち
ト東西の持物主殿う幕写無コ柳の行燈ひつくりとあると二重ぶち
鰒茶碗て有ると向方焼ひ組大鉢花ごとかげ江戸のうけ書コて出
こやくいろくはくたりぐるくんへ入
一コ　あくまもーふ柳のたもークアクラ夜ちつとかと柳ふと思ひいまく
ふ柳ふるものでいれコ　ト又舞ト白ふかと御屋敷ニ天
ぜいく結しやれいのふトはく初めの形ふ出て来る　一コ　お関義おくが物いふのふあいさつも
せびコめくさむさふえう出ー又行ドやでやこのふ　さのやや
法ドや　おつや猩々の屋ドやー又助ドやこのふ　ニテ看西方郎に用ふ有るう
一イや　知めコれ　こつや拍子コやこの屋ウ笑うれと思ふく有ふ　お関義ア

浦方信つが肩ぶみうつやれて見せぬら　おるもかーどやうん
おつぶ教ぼとこのドやらあぜ屋ぼとまくやあてトされ　ふ柳モ浦方信ふ
おいくもらふう嬉こ有る　ふ　御寄うが西ぬるふちうとと　ト夫人抱分ぼ　ふ
ふ有ふるのドや　行ふるこちぶ藤ふ浦方信門ふちあこそれ有るのドや　ふ
ぜけくやーれ　けがうくくうこと行ドやこちふて　ハテ知ふる西方郎の
お関義　一イや　芸西方郎の女房ドやあれこ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
の来社の御　ふ　そうや行ふのドや　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
一ハテ　ト　お関御　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ア屋六又助お関分戻らーふとり　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
がいふ事ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
一イや　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もぐ吟味せんと、ムスカ市郎つくづくこれも盗賊の新入紙、俗家すると、こも吟味
との仰せなれば、ハテ猟師たがそこの出あが猟師と若武者、両人
スリもこれの我が、俗近者、それもちろん住て、俗者のあるの酒、おいも一杯
飲て、俗者の物あつ、ヤ何の風情もなく業腹酒とや、コレ新吸めこの鍛冶よ、盗
賊の新入、出あの強盗の、ち郎が金源、ヤア何とやおたるかいとよべめ退く
これ、コリヤトリ、ヲヤかてくるく、物付のお関義、高西ち郎、皆の者
ト多神宗り、南高、ヲヤ文助ふだらも、ヲヤあかあのみあぐの稲荷大明神
よ住る家社の神とるぞとぞあるあのれと、ト八ツうてきるる、牡物ひろ
てこめ立あの退てくえよ、ト高西ち郎、ヲヤ
ムスカ市よ、ト、ヲヤ、ヲヤ、ヲヤ

だろうと　あうのみぬあう　殿方今お新とさとさとそ此屋を一すもお侍を　あ人の
そのもおようもそあるよ　嫁さんが出来て　子さんさるすこア
おあるよ　ト後ろ向きすると　高西さくさくく　イヤあちらのらさけうもべめりさ又侍くあるうもそあるぬで
子　表門さ女房めるて垂も見後ろ肌ふ添てゆる西ふ　ヤ殿方
行のじやちゃぬがちゃめりと出てらとふどふで　子何ものもちゃ
ヤ殿方　ヤア　ヤアとく　ヤ　高西ちくちくひん　肌脱ふ知あ二の　ト高西とろ
てちらりと　ありやもん　おのうの　緒行く年寄のひらふ　八宮さおた
ヤ　ヤ　ヤ　

おせつ
歌右衛門

女中分ゆうてトさんさ〻〻〻

のくとゆりたろう菖西さ郎が女房おまん〳〵ゆきぐ女房とさそふおかく〳〵ト
浦おかくとゆりたろう菖西さ郎〳〵そんな〳〵狐ぐ付く〳〵女房じゃあく〳〵
浦ゆりたろう菖西さ郎〳〵ぢ狐ぐ付くぢやあ〳〵そうや者ひでらんとを見狐ぐんいつちものぐでよ長十さんぢや〳〵すんの
のうそふ退さやあ〳〵浦〳〵さく退あい退ゆんが安さも国者て狐ぐけて者ひ浦菖
さ郎うちたア用気ぐ者さ上そもあ者ひ狐ぐごるまの利用ともつくつた
浦毎〳〵狐ぐめくあ分ふする〳〵そ〳〵そんな〳〵さ者さんぐ〳〵浦いふ〳〵安郎の保名の〳〵も
あつぐ狐〳〵狐ろう程でもとる〳〵そ〳〵いやぐ〳〵浦〳〵ひ者ぐもとるいつそでもとる新
浦〳〵そうさん〳〵そうあ〳〵浦〳〵イヤ行でもとるく〳〵ト浦おかく浦菖西さ郎〳〵浦菖西さ郎
女房で行ととるトいふ〳〵浦〳〵ヤア菖西さ郎〳〵ゆんよちの人ぐおまん〳〵〳〵コレイ
ナ浦おまんの、用気分ぐうく〳〵ナ〳〵ゆりたろう狐付ぐおあり〳〵そ〳〵ト浦おかく
ゆりたろう菖西さ郎行ぐわく〳〵浦〳〵コリヤ菖西さ郎出ろ〳〵我女房ぐまさ上さろう お国狐

〳〵イヤゆりたろうあやさあ〳〵そ〳〵行ときいさ〳〵浦〳〵アリヤ狐付ぐやぞよ〳〵いふ〳〵のみ狐の
保名のくあもあぐ狐ぐ狐ろう程でもあ〳〵浦〳〵ヤ〳〵ぐ〳〵ろそでも〳〵浦〳〵ナ〳〵ヤ
ふさよんものぐやてちトおさろうさ者ろ者ろ者ろ者ろ〳〵コレさちの人〳〵おさうさよやを者ろ者ろ者ろ
く者さこう〳〵アイ者ふでいちの型上の者で勤ていさ私も縁てうかおゆんよ名保で女さよ
狐てろそ用ふも和で者ぐ者さ乃狐のゆんと女者とふものを上者へ者ぐどこし
ぐがんぐ者れさ時一すさ上ぐのさぐろう同ぐ者さ者ぐ者ぐ者ぐ

うてこん　狐のさう　一そ　狐がのみて　はれがこが　ゆくぞ　ふさ　ふと　これこの
トおもひ　へのそく　イヤ　これぬ　ようふこと　無人目　ぶが　ぶよ　まこひ　輪　こうもみぶぐ
せつぐんぐ　ひんせうとの　女房のみのくるれあのやうふちんば　狐　つんでも　こてもあのむ　紅花
が　家の　無さよ　ぐふや　合　の　行ぬ　狐　対　コリヤ　浦　右　つ　はれが　女　対　が　狐　対　でふ
がこれ　喜びでふがうれが　播ふ　ふ　ちふ　サアはれを　播ふ　ど　男と　行こうまこと
此　内　家の　紅花　ちふ　ちふ　やうふ　ト　ふ　ふ　ト　ふ　コレ　ふ　ふ　ふ　ト　ふ　ふ　ふ
がうやうくぬ　ふでも　ふんと　浦　西　右　扉　お　紅　紙　の　盗　蔵　の　れは　出　の　弾　者　を
ハテ　ちつや　はれが　吟　家　ふ　ふ　ふ

トまゆと　てんかさいとのよ　トおせろと
てんかさ　そんなはなしかやくかさいとのよ　何ぞ
みが知さまがあるぞんち拝支無公我さまも思ひさまとトおれよ
いまも女の濃たちどもぞろ笑して　イヤあるぬ　ナニ　家よのばりとしたて
もせめてあるぞりはよ　イヤそろも　親方の嫁切さ　みそんあ　親方の嫁も
よ姫の孫も　そくどん　ハア　トあるト長屋喜西　御上さしや　ナニト　盗
紙の金助は縄うけるぞトえ縄　何とまをせとうもどぬうもトおせろ　盗賊の孫
拝　拝長金物沢鼠が知ぞこ　もあ長屋　弁慶　弁慶を清　弁慶奥生剃　トよる
べ元者　弁慶を清　弁慶奥生剃　トよる　イヤ　たるさん　今は戸へ　立賊は隅田川で　西さと名を改めて　猫師へとま
私が弁人　まゆ　せんを　スリや　出　猫の　弁人　姫の嫁　親方の孫もら
しゆんをれば　盗賊の孫　拝の　本金　助　長屋の　孫　長のアレアノ　長　私が　縄　ムモ

弁慶　弁慶奥　弁慶奥　弁慶奥

トけりのけいあり〳〵ゑはう　血筋の脾どもだて情とえせ釈迦のむとゆうもん　御八ゆのがも
ゆ接ちいつどはまをいび縄ゆめ〳〵ゲ玉よつうふが面倒ゆ〳〵ゆふよつて　トヌおそりとけりのけ
ゆ　ゆ　ゆ　

ゆるくべきとおもはれんさまのやうに能長とともやわ遠をつかまれ今相合者が
一命ゝが助けをふるてゝ御人今ハヤ現世の世界のはるく文の御人を無縁と名付さ
おもへの男の上り御うろ御人まれてゝどぶで死龍を所をひみやるてゝ御をて、
どのやうふあるぞじゆやうく私が御人ゝてゆうびやうお系の命と助けて美ひさ
それぞうとエレ今助夜又年が間五ざう同系の女房の公見でも当生四つあゝく
みんをとふ方一ハテ貞女を一どゝ人で女の命と一ゆゆの政をそれぞく新義
能長御人のうち礼を言めいうもそちが方の通り今助が命助てられ一ゆてみと
ぐゝふうり外る一為て対面御ゝ其系れト御一ハアトゆゆ一ゆゆ人御ゝと出く命外御人御
能一猿也せ一ゆ先を一猟師とゆる我くを只利の家来一いつは船の捕を
の後人一為て能長公通逆ゝて当西西方御ふ対係も今助と女名知て方ものの
ゆ為ゝ間西の方一却ゆうめゝハ一只利の女若猿也せ一ゆゆ今助夜ふ縄方

てゝゆゆ今助けゝ女ゝ一温盛の今助ち助け一それゝ又一釈の名ゝ又つぐ
孫後人八代目ゆ八宮をめゝゝ助め一只利の巌命一ゆふゆて方ゆて石抱へ一系
ぐゝ家の手脇縄ゆみゝ一ゆゆゆゆゆゆ一ゆゆ武士ゝ又ゝ武士ゝ又ゝ武士ゝ武士の御膳の御膳愁又ゝ
脇一武士ゝ又ゝ武士ゝ武士ゝ武士

縄うけて、イやうかどの法華山法長ぶいやうひろトわく
おくて 法殺人八代目美八宗
おくて 芝八 一毛降そいよく命と助け足利の家臣 ニてア 伯耆ヲ縄うけて 謀叛の
徒ヲ 法殺の棟梁 おこる殺 再び入り 科の条く訳ヲ 伊豆利こ
モトいとあるとれあるア 今 ア 殘念ものむかや 長れ家ると人今日の今ものれ四海せう
あくこく又の条会我業花とさうかさ牛ちさ我流も義堅と情のこらるうけられ
降ガ出世ヲ丹もるあり又と和との赤森の伝ト 後切ことする 作長ろて イやヲまくび長
とそせ 今 ニトト 仏教人ヲ ア 主ヲの効の上 ア 強つくあるこ出ろて 後悔ろび 祈
長ぶ 乳母ヲ 本源ともつて赤武の守護神ガ又のもうもあ 初八代目美八 巻八
宗町ヲ 条義と建て 釈ヲとの小足利の家臣 ア 情のかど
降ガ出世のくるもの ト 懐中ろ一巻と 平家長ろ家と 山一先ヲ 今 せん造て 奏ひろる 赤ヲ 長の恩
びの伯去 再びとる入我 悦び ア 山上ヲ文と我ヲ入 今 武士のまどろ ア スリ

八宗ヲ ア かゝめ ア ろ山法解ヲの御ヲと 那八ヲ ア ミテ 我ヲ ア 八宗 徒ひ 官領
の 綾 ア ろ ア ミテ 法長ヲ ア 元ろ一巻ひろ ア 上家ヲ ア ハ ア ト 伯耆ヲ
法 ア 降ヲのお情 降ガ出世ヲ ア せめてお法ヲ ア それヲ ア 及ばぬ ア ヲ
ト 家ヲ ア ヲ ア ヲ ア

の御切なるべい迄も良拵切ゆゑ
あるべ　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ

おいらるゝ〜ゆんとゝ〜「惚ゆーさ」「ヲ」「サ」
扨て云やーゆんを起郷と私ゴトさんせ「イヱ」
「そりゃ行で」「殿様と惚さとゝりつゝ淡海の起郷それをて云はく
の者藤のふせ第」「ヲ」「若ろいおりゝの外をとゝろのでおつふ
ごふ」「妻恋路分行こゝゆんと」「サア廓をぐ義と徳でいと嫌とゝ云ふることしおゝろ分
そんふを賀でそいうぬおいてトさんせ」「さたぐの妻恋路分れ拵りの行列分をてゝ云と
ごア後行を起郷とゝて云のゝと三淀この出藤のふせ第とゝひ分ゝ私がそゝひ日ゝ分
分のお賀ゝ四畳のふゆゝふ起郷とゝゆゝ殿ゝ殿第ゝれべゝとゆゝも可恋ひ殿れのゝ乳をひ
ごるふそようろふごか」「サを殿第も情ゆを殿分のお賀の上見利分ふもゝれゆもうと
ゆんのゝれゆるぬ志殿殿第ゝて賀方ハ後ゝがようふれゝどゝろゝく殿分を科ハ
ゝてゝゝゝゝゝ後ゝがアイゝろふんをゝふ」「スりゆ日ゝ分分の命がるふても後ひハ

んゝをぬゝ」「ヲ」「又金助ゝ法添ちれ度ゝ」「ヲ」「ゝれゝゝ
ト行ふゝ」「イヤを起郷ゝト」「ゝゝゆゝ」「ゝゝゝ後ーゆぬト」「ゝゝ
ゝを出」「コレちゆぬゝゝゝトゝゝゝ」「ゝゝ後さーゆんをぬりゆゝれちゝぐ」「ゝ月ゝの起郷ゆゝる
さーゆんせ」「ゝゝちも大ゝゝゝ起郷」「ゝゝゝゝれゝゝ」「ゝゝゝちゝゝゝゝさーゆんせ
トゝゝ大ゝゝゝ」「ゝ鬼の如ゝゝ鬼神とゝゝゝ」「ゝ一天ゝの起郷ゝ」「ゝ七枚ゝゝ
二ゝのゝゝ」「ゝゝゝゝ分ハ深白ゝゝ日ゝ国の神ゝ分ゝ」「ゝ拾ゝゝ入ゝゝ大ゝの起郷」「ゝゝ
さーゆんをぬゝ」「ゝゝ」「ゝ」「ゝゝゝゝ」「ゝゝゝゝ」「ゝゝゝ

柿之木金助
市川雛一郎
文政二卯年
正月上旬
大坂 河内屋八助板

吾妻路
おせり

ト入道ひきうけ会ようくとへ来ナヨシ〳〵引ぶつて
あんをちらづつく引ぬ丑〳〵
造り物又対庭門筋塀ゝそ三間二重茅屋去ものけぶき上の方ゴ人半吹揚のこと
芝ゴ角待つ西ゴ〳〵焼付大ゴ上ゴ西ゴ〳〵焼付大ゴ上ゴ西ゴ〳〵
待とうとて有ゴトの方ゴ軍兵武人ま切小ゴ御者つて武敗ゴてゴとつ人形ゴ〳〵
よろ〳〵水魚まやゴる禅の勤合方入ゴて道ゴ通る
口軍兵ごろじん
〳〵御ゴ人今有の道去頭の敵〳〵押寄ゴる筈〳〵迫ゴ峰方ゴ若ゴ〳〵
口軍
〳〵法法ゴ〳〵おつち物ゴ物〳〵出ゴ〳〵ゴ〳〵コリヤ人の出ゴた武川上ゴ出ゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵
小ゴゴとゴ切て〳〵涼川の花敵ゴ水魚ゴゴる用ゴ珍ゴ〳〵ハ〳〵無用長ゴ〳〵外
〳〵ゴく物〳〵ハウト人ゴ〳〵ゴ〳〵ヤイ用ゴ物ゴ〳〵〳〵ゴ〳〵〳〵
ゴ人ゴ無ゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵ゴ〳〵

敵を我手ひ能長安頸と表元味方は表を蓋とうぐとハテ公地トあア トそうぐるこそ軍を武人
出さく 軍 我君の為のあつひ法係さく法軍と為る所能長が日暮少くあちらの味方を味
義ぐうア方ようち表元と押寄ある 今 何一味のあつが皆義ぐいさとる 軍 後を
敵も我君を討死をもとり 今 ハ〳〵若うあんと思ひ国が皆押寄てもるで小田会弟と
えうる軍場仕様のあつんコリやそち逆ちとうえん山と依わく人数ともふ一ちと成て討て
死 ハ〳〵公地やーさ 今 ゆめうるかあるく ハア トハ〳〵 ひ思を表会方今的出ひ人ちるく ハ〳〵 今 ちれるる
ぬ あの刑法中の陽○今ちのぶんやハトさりと 急ちそ小屋ちを南面してうぐ屋象足ハ北面
えんでそ○表向紫徴ちあくとして○数を表数の強張と表くち○ハく色祇ぞ母
映明ってちれ決長を今星城克するを能長ちの時平州お表々ハ〳〵ハしなーや呼ぐ
やア トとう あて又ぶだ〳〵ってあ切小ちあまくまうあ出 軍 お取ハ四ぐんあるとあちちのてぐそハ能
長が母ひりそとくくゆぐれやーさぐ 今 ハ〳〵 ハと 軍 方 備配の待ってを鎧 押陣

不あの方ふち刃きあてく巻く付とお弟ちひがひるふ石火表てちあぐ配法先ち法軍を
討ち中く巻敵へを寄付とあ 今 ハ〳〵ちとびるぐ出ちハ上の水のちハ切てあとちあ
軍 ハやそれも能長がえうくひふく表ちれのふち切て ハ筋ハ名あ 今 ハ〳〵 ハやく ハハも
毎も能長がえうくひふて ハ味方をさんぐ退付先 押寄ちとハ切をとお知せヤさんあ拵表
を討もぐされとを表あ退付先へ押寄ちとハ切をとお知せヤさんあ拵表
今 ハ〳〵能長の猿智恵あく味方のふ与ちとぐく ハ トハ〳〵 ハ 今 念のちるしハく
能長始め安頸ちがそふ角引抜んをふぐや トハ〳〵 ハ の為ぐ〇ごんとるとと今ちんと
うう 御刃うふ トハ〳〵 ハく トハ〳〵 ハ ヤアハハ〳〵 ハ トハ〳〵 ハ
ハハト為ぐ〇の表くあて スりや敵人の御表縄の為を何く歌のてぐそ今日のふ
ちハ〳〵ぐう〇ての表ひ一味のもの表もさん逆て裏ぐうるとる トハ〳〵 ハ
一ちん変を立退時命を為とる トハ〳〵 ハ ハとどんと イやあんぐう御表縄のおめでも

武場そ　トはなしまうすとお泡肩くふあるど　トはなす　ラモそれを　トはなす　ハウトはなす
トはなす　はなす　はなす　トはどんくトはるる陸　とうげ合まるく　スリヤ　老婆トはどん　とはなす　キユエ　河豚
のおしゆ〜〇詩長めがるを五このれく思べば無会は嬉しう　トおどんごうんでおりとはな
ちくまて　ちるるを出く　こちのの人　ヤア女房　コレイヤ　今ぐらおまへのあと三漢の出雲と　イヤ
三漢への書状よりは　我はどそを　詩長めこ　サアアノ陸を敵やく　出雲とは老
人報の数ちあり　武場と蔵てトさんせ　イヤ　ヤ　ヤ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

繪本菊の戯　嵐雷子景事　全部二冊

忠臣連理鉢植　松好齋画　全部二冊

役者濱真砂　右同画　全部六冊

川嵜音頭　右同画　全部五冊

畫本棧道物語　右同画　全部六冊

文月恨切子　春好齋画　全部四冊

猿曳門出諷　右同画　全部三冊

三勝櫛曲根色指　右同画　前後八冊

戯場妹背通轉　芦國画　全部四冊

伊呂波國字忠臣藏　右同画　全部四冊

定結納爪櫛　芦國画　前後七冊

拳禪廓大通　右同画　前後七冊

敵討嚴流嶋　右同画　前後十二冊

傾城倭莊子　右同画　全部六冊

名作切籠暦　右同画　近刻　全部三冊

姉妹達大礎　上同画　全部七冊

傾城黄金鱠　全部八冊　近刻

書屋

名古屋本町十丁目　松屋善兵衛

京都寺町通御池上ル　鉛屋安兵衛

大阪心齋橋通傳馬町　塩屋長兵衛

同心齋橋通唐物町　河内屋太助

俳優似顔

生寫錦繪

類色二有

俳優今昔物語 全五冊

狂画堂芦國戯作
并画

世出へむ[illegible]が芝居ふたづさとうなる変と奇説
笑話の詠歌を集三教及を田舎の芝居ふり
有し変をとをいらいとさ迄役者[illegible]狂言
中ふれ狂言作者が駿子方乗座中旦[illegible]
見物[illegible]奇絶場[illegible]色く笑変[illegible]
又上[illegible]の役者[illegible]
忠孝と帳とまて真情を可笑を言葉を
[illegible]て好智いと表なる活を[illegible]
怪談先きなる物語形ど乗座ふて老[illegible]
物語のいつと[illegible]を変ど[illegible]
主たり[illegible]
花姿を[illegible]
[illegible]
主顔[illegible]

浪華書肆　文金堂　河内屋太助[illegible]梓

西邑與木治

西邑屋佐兵衛

西邑屋佐兵衛

市川鰕十郎

中村歌右衛門